

学術集会の開催と被災地の会員の皆様への対応について

2011年3月11日に発生した東日本大震災の犠牲になられた皆様のご冥福を心よりお祈りし、被災者、被災施設の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。震災により透析医療にも多大の影響が及び、何人かの患者さんが行方不明になられ、また避難所での厳しい生活から他界されました。さらに、透析医療施設の被災からたくさんの患者さんや透析従事職員が透析の可能な地域に移動され、不十分な環境下での透析や生活を余儀なくされました。影響は震災後の福島第一原子力発電所の事故も重なり今なお持続し、収束の目処は付いていません。

こうした状況下で多くの学術大会が中止、延期され、本学術集会の開催についても、日本全国が喪に服すこうした状況下では開催は自粛すべきだ、いやこうした災害を体験した今こそ、その経験が鮮烈なうちに将来の災害対策に役立つ学会を開催することが犠牲者への追悼になる、など多くのご意見を頂きました。熟慮を重ねましたが、医学は進歩を続けており、貴重な教育、研修、研究発表の場は可能な限り提供されるべきである、正しい震災情報を早急に共有する必要がある、幸い学会開催時期には開催地区で計画停電など国民生活に深刻な影響を与える規制は予定されていない、地元からの強い開催要望がある、などの諸条件を勘案し、開催させて頂くことに決定しました。しかし開催に当たっては、緊急企画として東日本大震災からの報告を第1会場に設定し、被災地、支源地からの透析医療に関する貴重な情報をご提供頂くこと、消費電力を極力削減し、一般市民の皆様への影響の抑制に努めること、募金活動、被災地域への支援活動を学会開催中に実施することなど、学会開催の利点を生かしつつ、デメリットを最小限にとどめるよう、運営には最善を尽くす所存です。どうか皆様のご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

一方で、被災地での医療活動などから学術集會に参加できない会員も多数おいでです。そこで、以下に**震災の影響で学術集會に参加できない会員**への対応を予定しております。

1. 発表の取り消し：学会に参加できずにやむを得ず発表のできない演題は、抄録集に掲載し、紙上発表として取り扱います。紙上発表を希望しない方は事務局へお申し出下さい。
2. 専門医制度における学会参加の単位： 現在専門医制度委員会で取り扱いを協議中です。決定の通知を頂きましたら、直ちにHPでご案内申し上げます。

改めて被災地の皆様にお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

第56回(社)日本透析医学会学術集會・総会
会長 秋澤 忠男